

旭化成は
救急医療分野へ進出。
AEDをはじめ、
様々な技術を
進化させてゆきます。

全国の公共施設に普及しつつあるAED。

それは、停止してしまった心臓の心電図を解析し、必要に応じて電気ショックを与える医療機器である。

旭化成は、米国の大手救急医療会社ゾール・メディカル社とともに、AEDをはじめとする救急医療機器の開発・販売をスタートした。

心停止で倒れた人に対して最も大切なのは、まず「胸骨圧迫」である。気道を確保し、胸の中央を両手で力強く、一定のリズムで押し続ける。

この初動を素早く行うことで、救命率は2~3倍上がる。新しいAEDは、音声で正しい装着と有効な胸骨圧迫を誘導し、

一般の人でも救命処置が行えるようになっている。誰かが倒れた時助けられるのは、救急隊員ではなく、たまたまその場に居合わせた人である。

進んで手を差し伸べる勇気をサポートし、ともに適切な処置を行える機器をつくってゆきたいと思う。

昨日まで世界になかったもの「進化した救急医療機器」。詳しくは www.asahi-kasei.co.jp

昨日まで世界になかったものを。

AsahiKASEI